

第3章 症候別インタビューのポイント

北九州市消防局 警防部指令課

高山 裕章

本スライドは、平成31年度一般財団法人 救急振興財団 調査研究事業「全国消防学校における通信指令業務に関するOne Day研修ツールの開発」（代表研究者 伊藤 重彦 北九州市立八幡病院）の成果物である。

症候別インタビューのポイント

第1節 共通項目

受信 → 情報整理 → 救急隊に伝達 → 口頭指導

基本は、意識・呼吸・循環

A・B・C・D

症候別インタビューのポイント

第2節 緊急度・重症度

指令員は、救急事案ごとに、どのくらいの時間的感覚で、医療を開始するべきかを常に考えておく必要がある。（治療の開始と、医療の開始の違い）

ドクターカー・ヘリ（現場から医療開始）

PA連携（早期現場離脱・病院到着時間の短縮）

※緊急度・重症度判断には、救急の知識が不可欠となる。

症候別インタビューのポイント

CPAでないことが判明したら、インタビューを開始する、ただし、急な胸痛 物が喉に詰まった、息が出来ない、大量吐血・下血など、CPAではないがCPAへ移行する可能性が高い症候を見逃さないことが大切である。総務省消防庁緊急度判定プロトコル、あるいは著者等の研究成果を参考にして緊急度判断を行う。

- | | | |
|--------|-----------------|--------|
| 1 頭痛 | 6 腰痛・背部痛 | 1 外傷 |
| 2 めまい | 7 麻痺、しびれ、脱力 | 2 熱傷 |
| 3 呼吸困難 | 8 意識障害 | 3 薬物中毒 |
| 4 胸痛 | 9 痙攣 | |
| 5 腹痛 | 10 吐血・下血・不正性器出血 | |
| | 11 動悸・不整脈 | |

※ テキストの聴取ポイントは、必要と思われる全ての内容を含んでいるため、実際の受信時においては、症状やキーワードから判断した必要最小限の内容を選択する。

本日の講義は、テキストの補足として、私の救急隊員と指令員の経験を織り交ぜながら話を進めていきたいと思っております。

症候別聴取のポイント（1 頭痛）



指令員これも注意



救急隊が知りたい

- ・ 巣症状（病巣）でているか
- ・ 意識レベル
- ・ 通報終わりに意識再確認
- ・ 急変時の再度通報を依頼

- ・ いつ発症（昨日から、突然）
- ・ 意識状態（具体的に）
- ・ 嘔吐の有無（頭蓋内出血？）

症候別聴取のポイント（2めまい）



指令員これも注意



救急隊が知りたい

- ・ 通報多いが油断しない
重症な原因も
- ・ めまい以外の症状確認
- ・ 急変時の再度通報を依頼

- ・ めまい以外の症状
- ・ 耳鳴り・難聴の有無

症候別聴取のポイント（3呼吸困難）



指令員これも注意



救急隊が知りたい

- できれば呼吸の性状を確認
- 協力者の確保
- 体位は、**起座**保持させる
- 急変時の**再度通報**を依頼
- 一人暮らしの場合の**解錠**

- 呼吸苦？どんな呼吸してる？
- 横になれる？なれない？
- 会話できる？

症候別聴取のポイント（4胸痛/11動悸・不整脈）



指令員これも注意

- ・一人暮らしの場合の解錠
- ・協力者を確保
- ・急変時の再度通報を依頼
- ・応急手当の可能性伝える
- ・AED準備を依頼



救急隊が知りたい
救急隊の考える

- ・冷汗・顔色は？
- ・心停止に備えた資器材確認
- ・心停止時の活動検討

症候別聴取のポイント（5 腹痛）



指令員これも注意

- ・ 通報多いが油断しない
- ・ 循環器疾患も疑う
- ・ 腹部だけでなく背部も確認



救急隊が知りたい

- ・ 心臓・大血管では？
- ・ 既往症は何か？

症候別聴取のポイント（6腰痛・背部痛）



指令員これも注意



救急隊が考える

- ・腰痛＝整形ではない
- ・腰と背の表現は人それぞれ
- ・外因性確認と緊急度高いものから

- ・大動脈解離では？
- ・冷汗・顔色はあるのか？
- ・搬送を急ごう！

症候別聴取のポイント（7麻痺・しびれ・脱力）



指令員これも注意



救急隊が考える

- ・ 脳梗塞疑いFASTを参考
- ・ F（顔） A（腕） S（言葉） T（時間）
- ・ 同乗家族の確保
- ・ お薬手帳の準備

- ・ 血栓溶解療法に間に合うかな？
- ・ 発症から4.5時間以内？
- ・ 同乗家族いるかな？

症候別聴取のポイント（8意識障害）



指令員これも注意



救急隊が考える

- ・意識障害は原因多種
- ・協力者を確保
- ・ABC確保して聴取継続
- ・糖尿・ショックは救急隊へ

- ・気道確保できているかな？
- ・原因はなんなのだろう？
- ・適応あれば、特定行為実施
(ブドウ糖溶液の投与)
(心肺機能停止前の静脈路確保)

症候別聴取のポイント（9 痙攣）



指令員これも注意



救急隊が知りたい

- ・ てんかん発作
- ・ 幼児の熱性痙攣
この2つが大半を占めるが、
痙攣後のA B Cを怠らず。
- ・ 異常時の再度通報を伝える

- ・ 心停止ではないか？
（過去の経験から）
- ・ 痙攣後のA B Cは大丈夫？

症候別聴取のポイント (10吐血・下血・不正性器出血)



指令員これも注意



救急隊が考える

- ・ 全身状態の確認
- ・ ソ・レ・キ・ミ・コ
(蒼白・冷汗・虚脱・脈不触・頻呼吸)
- ・ 血液確認する旨を伝える
- ・ 分娩後は傷病者2人となる
- ・ 2人の状態を把握する

- ・ ショック状態では？
- ・ 適応あれば、特定行為実施
- ・ 血液の性状を現場で確認
- ・ どちらか状態が悪くないか？
- ・ 産婦人科掛かっているのか？

症候別聴取のポイント（1外傷） P 28



指令員これも注意



救急隊が考える

- ・ 通報者の安全確保
- ・ 二次災害の危険性確認
- ・ 分かる範囲で概要伝える
- ・ 通報者のトラウマ回避

- ・ 現場活動をイメージ
- ・ 負傷者数を知りたい
- ・ 増隊、ドクターカー判断
- ・ 多数傷病者では、トリアージ

症候別聴取のポイント（2 熱傷）



指令員これも注意



救急隊が考える

- ・ 熱源への対処
- ・ 二次災害の防止
- ・ 熱源の特定と環境把握
- ・ 熱傷部位に応じた冷却

- ・ 安全な状況か？
- ・ 気道熱傷、広範囲熱傷の有無
- ・ 工場等、詳細確認後の活動

症候別聴取のポイント（3 薬物中毒）



指令員これも注意



救急隊が考える

- ・ 朦朧、寝ているなどに注意
- ・ **A B C**確認を怠らず。
- ・ **発見者の安全確保**
- ・ **発見者の容態も確認**

- ・ 医薬品か工業製品か？
- ・ 異臭等では、上位出動

【聴取時に心掛けていること】

- ◆ 傷病者に有益な内容なのか、苦しんでいる傷病者に長く聴取していないか。
- ◆ 自分本位で通報者に無理な依頼をしていないか。安全に配慮しているか。
- ◆ 病名を決めつけていないか、重篤な症状が潜んでいることを考えているか。
- ◆ 傷病者のプライバシーに配慮しているか。
- ◆ 通報者のトラウマを回避するような配慮はできているか。
- ◆ 効率的かつ必要最小限の聴取を意識し、次の通報に備えているか。
- ◆ 各種判断や口頭指導において同じ間違いを繰り返していないか。
- ◆ 通報者や傷病者の気持ちに寄り添った対応ができているか。